第６学年　国語科学習指導案

平成３０年１０月１６日（火）５校時
担　任　・　学　校　司　書
場　　所　　　渡津っ子図書館

1　単元名　　町の幸福論－コミュニティデザインを考える

2　単元の目標

○　自分たちの町の未来に関心を持ち、教材文や本、資料を読んで調べ、その内容を相手に伝えようとしている。（関心･意欲･態度）
○　目的に応じて、話の構成を工夫し、場に応じた適切な話し方で話すことができる。（話すこと・聞くこと）
○　話し手の考え方を理解し、自分の意見と比べながら聞くことができる。（話すこと・聞くこと）
○　目的に応じて複数の本や資料を選び、比べて読むことができる。（読むこと）
○　目的に応じた文章の構成について理解することができる。（言語に関する知識･理解･技能）

3　基盤（児童観省略）

○ 本単元の重点指導事項は、学習指導要領におけるA話す・聞く（1）イ「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」および、C読む（1）カ「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」である。児童はこれまで、５年生「和の文化を受けつぐ - 和菓子をさぐる」で、目的を意識していろいろな本や資料を読むこと、伝えたい内容や目的に合わせた資料を用いて説明することを学習している。また、６年生「イースター島にはなぜ森林がないのか」では、事実と意見に注意して筆者の考えを読み取って自分の考えを持ったり、読み手を説得するための工夫を読み取ったりすることを学習してきている。しかし、図表などを用いて自分の考えを発表する学習は十分ではない。そこで、本単元では、図や表などを用いて説明する方法を「町の幸福論」から学び、そのことにもとづいて、自分で図表や資料を活用して町の未来についてプレゼンテーションで発表することをねらいとした。

プレゼンテーションを行う場合、まずは情報を集めなければならない。そして、集めた情報を自分の目的に合わせて取捨選択したり、加工したりする力が必要になってくる。情報をいかに効果的に提示し、説明するかというプレゼンテーションの鍵となる力とともに、複数の資料から読みとった情報を効果的に活用できる力を育てたい。

○ 以上のような児童の実態と教材のねらいから、以下の点を大切にして指導していきたい。

研究の視点（1） - ①主体的な学びの姿を求めて

ア　単元構成の工夫

本単元は、総合的な学習の時間「江津の未来を考えよう！」の学習と関連して行う。総合的な学習では、現在の町の課題や取り組みについて調べ、自分達の理想とする江津市の未来像を描く。その町の姿を実現するために、出前講座に来ていただいた市役所の方や地域の方々にプレゼンテーシ

ョンを行う。総合的な学習の時間と同時に進めることで、目的意識をもってプレゼンテーションの方法や構成などを学べることを期待する。また、実際に町づくりに関わっておられる方や、そこに住んでいる方々からもらった意見や感想は、児童にとって何より励みとなるものであろう。

単元構成は以下の通りである。

国語「町の幸福論」	総合的な学習「江津の未来を考えよう！」
	江津市の良さと課題を挙げる。
	市役所出前講座を聞く。 「江津市の課題と取り組み、町づくり」
１次 学習の見通しを立てる。	グループで提案する町の未来を考える。
２次 本文の読み取りと並行読書。	フィールドワークへ出かける。 町の人にどんな町になるといいかインタビューをしたり、駅前の様子を調査したりする。
３次 必要な情報を集める。 ルーブリックを作成し、プレゼンテーションの準備や練習をする。	プレゼンテーションソフト（キューブキッズ）でプレゼンテーションをつくる。 ・写真や言葉の使い方 ・著作権（情報モラル）
４次　地域の方に「わたしたちの考える町の未来」プレゼンテーションを行う。	
	自分たちにできることを考えて実行する。

イ　ルーブリックの作成（主に指導計画⑥～⑭）

昨年度より、児童のメタ認知能力を育成する手段のひとつとして、ルーブリックの作成と活用を行っている。全校朝礼やデリバリースピーチ、運動会といった国語科以外の場面でも活用し、児童にとってはなじみのあるものとなっている。本単元でも児童とともにルーブリックを作成し、振り返りに活用することで、児童が目指す具体的な姿を意識して学習に向かえるのではないかと考える。また、他のグループのプレゼンテーションを見る時の視点にもなるだろう。

作成の際は、教科書から見つけられることや既習事項をＡ（概ね満足できると判断できる姿）、教科書では見つけられなかったが、プレゼンテーションのモデルで見つけられたことをＳ（十分満足できると判断できる姿）とし、ＡとＳを全員で考えることとする。学習を進めていく過程でさらによい姿を児童が見つければ、それをＳとして付け加えていく。

イ　モデルの工夫（主に指導計画①⑥）

プレゼンテーションのモデルは、すぐ近くにある石見智翠館高校の放送部の生徒に協力してもらう。教科書と同じ内容のプレゼンテーションを実際にしてもらい、その映像をモデルとして使用する。智翠館高校とは、朝の読み聞かせに来てもらったり、吹奏楽部の演奏会をしに来てもらったり

と普段から交流がある。児童にとって身近な先輩のモデルを見ることで、「あんな風になりたい！」と意欲をもって学習に取り組めることを期待する。

研究の視点（１）－②対話的な学びの姿を求めて

ウ　学び合いのための工夫　思考を支えるツール（主に指導計画⑬⑭）

　プレゼンテーションを互いに見合う際には、良い点をピンク、改善点を青の付箋にメモしながら聞き、終了後に各グループに渡す。もらった付箋を見ながら、再度自分たちの話し方や構成を見直し、本番のプレゼンテーションをより良いものにしてほしい。

研究の視点（２）－④情報収集力をつけるために

ウ　学校図書館の活用（主に指導計画②～⑤、⑦～⑪）

　情報は主に図書館の資料とインターネットで集める。図書館の資料は教室に置いて並行読書として読ませていく。プレゼンテーションの準備をする前に、なるべく多くの情報を集めることができるように、地域の図書館、学校司書とも連携して十分な資料を用意したい。２次の読み取りの際は、授業の終わり１５分を並行読書の時間として確保する。

　集めた情報は情報カードにまとめてファイリングしていく。情報カードはこれまでも様々な教科で使っているので、児童は扱いに慣れている。本単元でも情報カードを使うことで、集めた情報をグループで見合って取捨選択する際にも便利であることに気付かせたい。

　また、並行読書の本の紹介、情報収集、プレゼンテーションの練習など、より学習がスムーズに進められるように、学校司書も支援に入る。

４　指導計画（全１４時間・本時9/１４）

時		主な学習活動	教師の支援	評価規準と評価方法
１次	①	**学習のめあてをつかみ、見通しを立てる。** ・学習の見通しを立てる。 ・プレゼンテーションについて知り、ゴールを明確にする。	○自分たちの考える町の未来を、市役所の人や地域の人に発表するという学習のゴールを確認する。 ○モデルとなるプレゼンテーション動画を見せ、プレゼンテーションについての理解を図る。	関教材文の内容に関心を持ち、プレゼンテーションをするという学習課題を確かめ、進んで学習に取り組もうとしている。（発言・行動観察）
２次	② ③ ④ ⑤	**「町の幸福論」を読み、本文の内容を読み取る。** ・本文を通読し、序論・本論・結論の文章構成をとらえる。 ・文章の内容を読み取るとともに、図表などの資料の用いられ方とその効果を確かめる。	○町づくりについての本や資料などを紹介し、並行して読んでいく。 ○各読み取りの時間の終わり１５分間を並行時間の時間として確保する。 司並行読書する本の紹介	読プレゼンテーションを行うという目的を踏まえ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら読んでいる。（ノート・発言）

		・文章の要旨を読み取り、筆者のメッセージを踏まえて、町の未来についての自分の考えを持つ。 並行読書↓	○筆者の考えである「人と人とのつながり」を作るための取り組みという観点から考えさせるようにする。	言目的に応じた文章の構成について理解している。（ノート・発言）
3次	⑥	**ルーブリックを作成する。** ・プレゼンテーションのモデルと教科書から、目指す姿を考える。	○教科書の例に線を引きながら、相手を説得させる話し方や内容の構成を見つけるようにする。 ○教科書から見つけた内容をAとし、ルーブリックを作成する。	言相手を説得するために必要な話し方や内容の構成を理解している。（教科書・発言）
	⑦ ⑧	**複数の資料を読み、必要な情報を集める。** ・総合的な学習の時間に考えた、江津市の未来の姿をもとに、グループで情報を集める。	○これまで並行読書で読んできた本や資料の内容を参考にする。 ○本やインターネットの他にも、インタビューやアンケートも効果的な情報を集める方法であることを確かめておく。 司情報収集の支援	読目的に応じて、本や資料などから複数の情報を集め、関係づけて活用している。（発言、情報カード、ワークシート）
	⑨ 本時	**どんな提案をするのか話し合い、必要な資料を考える。** ・プレゼンテーションの構成メモを考える。 ・集めた情報を整理して、提案することや事例を考える。	○情報カードを取捨選択し、提案の内容によりふさわしいものを選ぶようにさせる。 ○構成メモはワークシートを用意する。 司情報を整理する支援	話聞伝えたいことに合わせてプレゼンテーションの構成を工夫し、必要な資料を考えている。（構成メモ、発言、行動観察）
	⑩ ⑪	**必要な情報を集めてプレゼンテーションの準備をする。** ・資料を用意し、プレゼンテーションの原稿をつくる。	○話の一まとまりごとに一資料を原則とし、短い言葉でまとめるようにさせる。 ○集めた情報をすべて使うのではなく、伝えたいことや時間配分を考えて取捨選択させる。 司原稿を考える際の支援	話聞意図が伝わるように、情報を選んで話の構成を工夫し、必要な資料を作成している。（構成メモ、資料、行動観察）
	⑫ ⑬	**プレゼンテーションの練習をする。** ・発表の練習を行う。 ・プレゼンテーションを互いに見合い、アドバイスをし合う。	○自分たちのプレゼンテーションをビデオにとり、改善点を話し合うようにする。 ○付箋紙に良い点や改善点をメモしながら相互評価するようにする。 司グループでの練習、話し合いの支援	話聞聞き手に意図が伝わるように、話の構成や資料の見せ方を工夫して話したり、話し手の意図をとらえて自分の意見と比べながら発表を聞いたりする。（プレゼンテーション、行動観察、ワークシート、発言）

4 次	⑭	**「わたしたちの考える江津市の未来」プレゼンテーションを行う。** ・市役所や地域の方を学校に招待し、プレゼンテーションを行う。 ・単元のまとめをする。	○市役所や地域の方に感想や意見を言ってもらい、総合的な学習の時間へとつなげる。 ○ルーブリック表で自分達の振り返りを行う。	

5　本時の学習（全１４時間　本時　9/１４）

（１）目標

○伝えたいことに合わせてプレゼンテーションの構成を工夫し、必要な資料を考えることができる。

（話すこと・聞くこと）

（２）学習の展開

	学習活動と予想される児童の反応	○教師の支援　☆評価
導 入	**１　前時までの振り返り** **２　めあての確認** 相手に伝わるようなプレゼンテーションの構成を考えよう。 **３　本時の流れの確認**	○各グループの町の未来像を確認して、前時までの学習を振り返る。 ○「相手に伝わるような」とは、どういう内容だったか確認するために、ルーブリックを提示する。
展 開	**４　情報カードの整理の仕方、構成メモの書き方を知る。** **５　情報カードを整理する。** ・それぞれ調べた情報カードを見せ合って整理していこう。 ・○○町の事例は情報が少ないね。 ・□□町の事例は面白いよ。 **６　グループごとに構成メモをつくる。** ・○○町の事例より、△△市の事例の方が自分達の未来像に近いよ。 ・この事例を使うなら写真が必要だね。 ・現状の問題点を挙げる為にアンケートをとってみたらどうかな。	○児童が分かりやすいように、実際に情報カードを整理して付箋（タイトル）をつけながら説明する。 ○話し合いが円滑に進むように、司会を決める。 ○学校司書はグループの話し合いを支援する。 ○話す相手に伝わりやすいように、話の１まとまりごとに１資料を原則とする。 ☆伝えたいことに合わせてプレゼンテーションの構成を工夫し、必要な資料を考えている。（ワークシート、発言、行動観察） ○情報カードと自分たちの未来像を照らし合わせ、一番近い事例を選ぶようにさせる。 ○提案する内容が事例と合っているか、確認をするように声をかける。

まとめ	**7　ワークシート、ルーブリックに振り返りを書き、本時のまとめをする。** ・資料や情報が足りないところがあったので、もう一度調べたい。 ・写真はより伝わるように違うものがないか探したい。	○構成メモをつくって、再度調べたいことが出てきたら、次時に情報を集めるように伝える。

（３）研究の視点

○本時の目標を達成するために、以下の教師の支援は効果的であったか。

（ルーブリック、場の設定、情報カード、付箋紙の活用、等）

○主体的・対話的で深い学びの姿になっていたか。

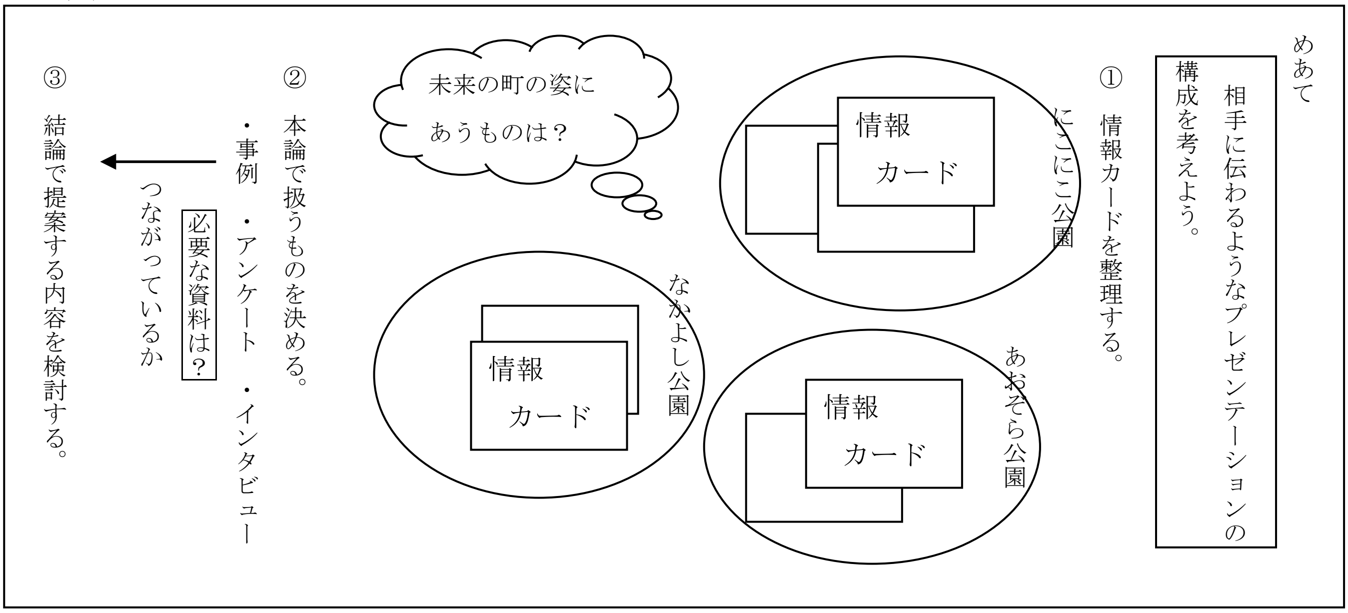
（４）本時の具体的な評価規準

十分満足できると判断される児童の具体例	概ね満足できると判断される児童の具体例	努力を要すると判断される児童の具体例と○支援
伝えたいことに合わせて、ルーブリックのＳを意識したプレゼンテーションの構成を工夫し、必要な資料を考えている。	伝えたいことに合わせてプレゼンテーションの構成を工夫し、必要な資料を考えている。	プレゼンテーションの構成が思いつかない。 ○情報カードと自分たちの未来像を照らし合わせ、一番近い事例を選ぶようにさせる。

６　想定されるルーブリック（相手を説得するために）

	S	A	B
事例と提案のつながり	・描いた町の姿と提案の内容、事例のつながりがある。 ・序論、本論、結論に分かれ、本論で事例以外にアンケートやインタビューなどが入っている。	・描いた町の姿と提案の内容、事例のつながりがある。 ・序論、本論、結論に分かれ、本論に事例が２つ以上入っている。	・描いた町の姿と提案の内容、事例のつながりがある。 ・序論、本論、結論に分かれているが、本論の事例の情報が少ない。
資料の使い方	・効果的な写真や図、グラフがタイミングよく使われている。 ・文字の色、大きさ、数が見やすく印象に残る。	・写真や図、グラフがタイミングよく使われている。 ・文字の色、大きさ、数が見やすい。	・写真や図、グラフが使われている。 ・文字の色や大きさが見やすい。
話し方	・聞き手の反応を確かめている。 ・伝えたいところを強調したり、間を置いたりしている。	・聞き手の反応を確かめている。	・聞き手の反応を待っていない。

7　板書計画



8　研究協議の概要

参加者	校内　１１名、校外　１４名　　計　２５名
授業及び研究協議の概要	授業の概要 　前時までの学習で、自分達の提案する町の未来像に合った事例などを調べ、情報カードにまとめている。本時では、その情報カードをグループで交流し、整理しながらプレゼンテーションの構成を考える学習を行った。 協議の概要 ・情報カードの整理の仕方を学校司書とともに実演したことで、児童がスムーズに活動に入ることができた。 ・ルーブリック表（児童の到達目標を具体的にしたもの）があることで、どんな構成にすると分かりやすいのかを意識しながら話し合うことができた。メタ認知力を高める単元構成になっている。 ・話し合いの時は支援が必要だろうと思われる１グループに学校司書がつき、他は担任が支援に回ったが、学校司書の児童への関わりがとても良かった。 ・情報活用能力の育成を達成するのは国語科だけでは難しい。今回の単元のように、総合的な学習の時間や他教科と関連させて教科横断的に取り組む必要がある。児童にとってもその方が視野も広がり、意欲も高まるのではないか。 ・情報カードの項目（出版社、発行年、著者名等）を毎回書くのが負担になる児童がいた。その場合には、指導者側で資料リストを作り、その番号を書くことで省略できるのではないか。 ・調べる前に「何を」調べるのかという視点をはっきりさせること、伝える相手を明確にしておくことが大切である。 ・本単元では、図書資料からの情報が少なく、主にインターネットから情報を集めたため、情報収集に時間がかかり大変であった。ある程度事前に担任と学校司書でたどり着いてほしい情報に誘導する必要もある。 ・今後は情報と情報を結び付ける力（情報活用能力）を育てていく必要がある。